

あいち病害虫情報 最新情報

平成21年9月15日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

9月上旬は雨降らず

9月上旬の気象は、気温は平年並、降水量はかなり少なく推移しました。気象予報によれば、今後も降水量はやや少なく推移するとされているため、害虫の発生に好適な条件が続くと予想されます。ほ場での発生状況をよく観察し、的確な防除を心がけましょう。

なお、20日頃から、台風14号の影響を受けるおそれがあります。風雨によりアブラナ科野菜で軟腐病、黒斑細菌病、黒腐病など細菌性病害の発生が懸念されるため、排水対策を十分に行い、銅剤等による予防に努めてください。

ダイズ、野菜類、花き類の鱗翅目害虫

9月上旬の降水量がかなり少なかったため、ハスモンヨトウの発生が多くなっています。卵塊や若齢幼虫が多く認められた場合、幼虫の分散前に防除を実施しましょう。防除対策等については、9月1日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号」を参考にしてください。

アブラナ科野菜では、ハイマダラノメイガのフェロモントラップにおける誘殺数が平年よりやや少ない状況です。ほ場での発生も多くありませんが、今後、少雨高温傾向が続くと発生が増加する可能性があります。これから、は種、定植するほ場では特に注意しましょう。

コナガの発生量は現在のところやや少ない状況です。

9月上旬のオオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、平年に比べ多く、特にキクほ場で多くなりました。キクでは、頂芽部の奇形や花蕾に食入痕が見られる場合は早急に防除しましょう。また、キャベツほ場でも平年より多く発生しています。キャベツでは、結球内部に食入すると防除が困難になりますので、若齢幼虫の発生を確認したら防除を実施しましょう。例年、9月下旬に再び成虫の発生がピークを迎えますので、注意が必要です。なお、防除対策等については、9月1日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

イチゴ炭疽病、萎黄病

イチゴ炭疽病は、育苗ほでの発生はやや少なかったですが、発生を確認したら、速やかにほ場から持ち出し適切に処分しましょう。また、萎黄病の発生にも同様に注意しましょう。

落葉果樹

モモハモグリガの多発しているモモ園では、早期落葉を防ぐとともに越冬成虫密度を減らすため、秋季防除を徹底しましょう。

ナシ黒星病は、葉では、やや多い発生量で推移しました。次作の伝染源を減らすため、秋季防除を実施しましょう。

うどんこ病の多発しているナシ、カキ園では、早期落葉と次作の伝染源を減らすため防除を実施しましょう。

果樹カメムシ類

現在、フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数は少ない状況です。また、予察灯における誘殺数は8月下旬から9月上旬に増加したものの、9月第3半旬では平年並に推移しています。果樹園への飛来は、今のところほとんど見られません。しかし、ヒノキ球果への寄生虫数は多い状態ですので、ヒノキ林に近い果樹園では果樹園内を観察し、飛来に注意しましょう。詳しくは本日発表の「果樹カメムシ情報第3号」を参考にしてください。

トマト黄化葉巻病に注意！

今作、既にトマト黄化葉巻病が各地で発生しており、今後の感染拡大が心配されます。生育初期に感染すると被害が大きくなるので、発病株は見つけ次第抜き取りとともに、タバココナジラミの早期防除に努めましょう。

問い合わせ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除グループ
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820